

# 宮崎市立宮崎北中学校の学力向上への取組

## 1 学校の概要

本校は、宮崎市北部の農村地域に位置し、生徒数：188名、学級数：8学級（特殊学級2）、職員数：28名（県費負担教諭16名）の中規模校である。

瓜生野小学校、倉岡小学校の2校からの入学で、気質はいたって純朴で素直であるが、やや競争意識に乏しく、のんびり構えている面もある。保護者や地域の姿勢は、地元意識が強く、学校教育に対しては非常に協力的であり、高校進学に関しては県立志向が強い。参観日出席率は70～80%程度で、今一歩である。

また、スポーツ熱も高く、小学校時より、女子バレーボールやソフトボールが非常に盛んである。よって、本校の部活動も、毎年のように女子バレーボールと柔道が県大会レベル、野球も市で上位レベルの戦績を残している。（部活動入部率85%）

学校のスローガンは、『光る汗・輝く心・煌めく知性』北中生』である。



## 2 生徒の実態

### (1) 生活面

生徒は全体的に大変落ち着いた生活態度である。容儀面の乱れはほとんど皆無といってよい状態にある。「当たり前前」の事を「当たり前前」の事としてできる生徒の育成に日々努めており、「礼を正し、場を清め、時を守る」ことを具体的実践事項として取り組みながら、「心を鍛える」ことに主眼をおいている。

#### ① 「礼を正す」

- 特に「あいさつの励行」については、「いつでも・どこでも・だれにでも」を合い言葉に実践に努め、地域住民からも非常に高い評価を得ている。
- また、「整列の美」として、トイレのスリッパ、移動時の机・椅子の整理、自転車の整理など、あらゆる場面で「心が揃えば、物がそろう」をスローガンに取り組んでいる。

#### ② 「場を清める」

- 清掃を「ハートクリンタイム」と位置付け、「1分前黙想→無言清掃」を徹底し、近隣の小学校からも視察が来るほど、生徒達自身が誇りに思う見事な活動である。



#### ③ 「時を守る」

- 特に授業の「2分前着席」を徹底し、生徒も教師も授業の1分を惜しみ、大切にしている。その姿勢が、修学旅行や校外活動でも「時を守る」生きた実践として高い評価を得ている。

### (2) 学習面

#### ① 「基本的学習習慣面」

- 特に、1年生時に、学習用具や課題等の「忘れ物」が多い。全学年を通して、「宅習」の習慣が身に付いてない生徒も若干おり、「宅習の時間」が極めて少ない生徒もいる。  
また、授業中の発表の声が小さいなど、「表現力」の面が課題である。

## ② 「成績面」

- 各定期テストは、全教科平均70～75点以上をクリアしている。標準学力テストでは、特に、「数学」「英語」における顕著な傾向として、各教科学年が上がるにつれて、評定1,2,3の段階の生徒が減少し、4,5の段階の生徒が著しく増加している。  
また、3年生時の地区統一テストでも常にトップクラスの成績にある。

## (3) 「不登校・いじめ・非行」等

学校に全く来れない不登校生徒はゼロである。不登校気味の生徒が3名程度いるが、先生方の熱心な取組により、保健室や相談室止まりだった状態から、少しずつ授業へも出席できる段階へと進歩してきている。いじめについては、特に1年生時に、「あだ名」等、幼い次元の、心ない言葉を簡単に口にして、人を傷つけるといったトラブルが多い。非行については、特筆するような事例はない。

## 3 学力向上に向けた経営方針

経営理念は、「一つ一つの教育活動をていねいに行い、生徒のもつ力を『引き出し、鍛えて、伸ばす』ことにより、生徒達に達成感をもたせ、感動ある体験を通して『自信』をつけさせる」である。そして、その理念の根本にあるのは、「教師が変わらなければ、生徒は変わらない」ということである。そこで、まず先生方の意識改革を図ることが、学力向上に不可欠だと考え、特に次の3点について共通実践を促している。

### (1) 「プロ意識」をもち、「学力に責任をもつ」こと。

- プロであるなら、生徒の学力をしっかりと見届け、その結果に責任がもてるはずである。  
学校とは本来、「学力」をしっかりと身に付けるところであり、だからこそ1時間1時間の「授業」の充実が大切であるという観点から、生徒が「わかって・できて」楽しいと感じる、「魅力ある授業づくり」に日々努めるべきである。
- プロなら、常に「目標」を高く、一人一人の達成度を見届け、「補充学習」を通して、根気強く生徒の学力を「鍛える」はずである。
- プロなら、学習環境を整えるために、「学習訓練」(姿勢、返事、声の大きさ、忘れ物等)を徹底させて、学習の基盤づくりに努めるはずである。(「『しつけ』のないところに教育は成立しない」)

## 4 教育課程内の取組

### (1) 全教師、年1回以上研究授業を行い、授業研究会等を通して「授業力」の質の向上を図る。

- 特に主題研で取り組んでいることは、
  - ① 「生徒を巻き込む活動」が工夫された授業であること。
  - ② 「生徒の表出力を高める」工夫がなされた授業であること。

### (2) 「習熟度別少人数指導」の活用を図る。

- 「数学科」「英語科」は、全学年、全時間、習熟度別のコース



に分けた授業を実施し、個に応じた授業を展開している。学力向上において、この2教科が特に顕著な伸びを示しており、「核」になるこの2教科が、他の教科によい刺激を与え、全体の底上げにつながっている。

(3)「サマースクール」の充実を図る。

- 夏休み期間中、延べ20日程度、3年生全員を対象に、5教科について「学力補強講座」を実施している。1, 2年生については、後半の1週間を、「課題徹底週間」とし、全生徒課題を完成させる。

(4)「補充学習」の充実を図る。

- 昼休み、放課後等を活用して、小テスト等で、目標に達していない生徒一人一人の習熟の度合いに応じて、「わかる」まで補充学習を行う。(「英語」「数学」が中心)

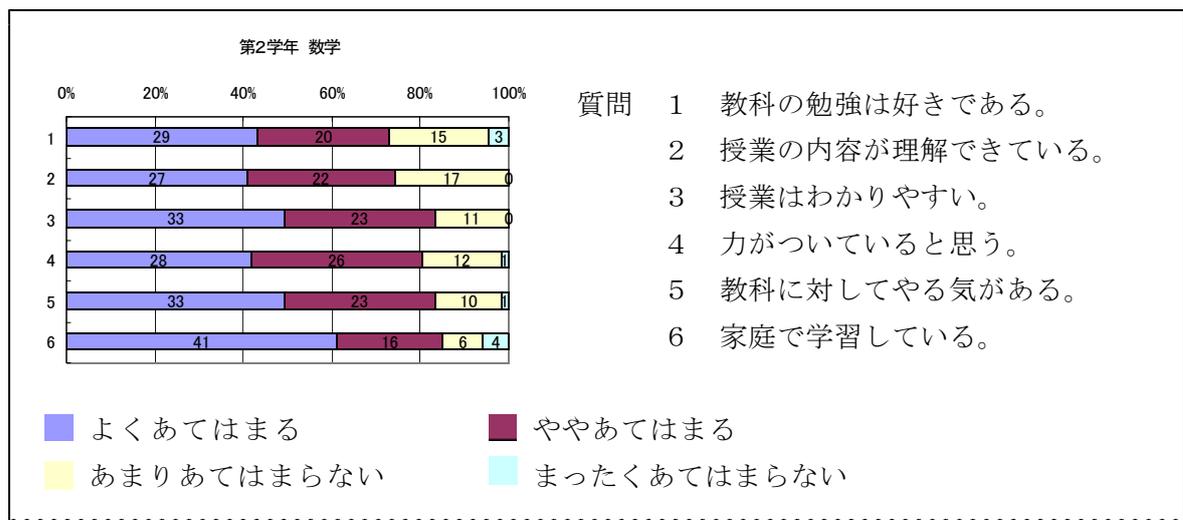
(5)「学習訓練」の共通実践を図る。

- 学習の最も大切な基盤づくりとして、基本的な「学習訓練」の徹底を、全教科共通して取り組んでいる。(チャイム席、姿勢、返事、声の大きさ、聞く態度、忘れ物等)

5 教育課程外の実践

(1)「内部評価」の活用を図る。

- 生徒による「各授業の評価」を活用し、授業の一層の工夫・改善に努めている。



(2)「教科部会」の充実を図る。

- 月1回の教科部会を通して、授業の充実、各テスト結果の分析・改善・評価等を行い、学力向上に向けて、教師一人一人の意識改革に努めている。

6 保護者・家庭・地域との連携

(1)「各通信」を通して啓発を図る。

- 各学担とも、毎日～週1回程度の頻度で通信を各家庭に届けている。通信を通して、特に「宅習」への取組状況について、各家庭との連携に努めている。また、「校長室便り」も月1回発信し、家庭教育力の向上に努めている。

**1年組 学級通信**  
**チャレンジ**  
宮崎市立宮崎北中学校  
平成17年

【9月1日～2日の9月定期テストに、ベストを尽くそう。】



今日の登校日に、各教科の問題集の解答が配られました。これからの12日間、答え合わせをしっかりとやって、テスト勉強に力を入れましょう。  
もし、夏休みの課題が終わっていない人は、22日～26日までの1週間、課題指導期間(9時～12時)となっていますので、登校してください。  
ところで、学年通信でもお知らせしたとおり、10月下旬から11月初旬にかけて、県統一のテストも3教科(社会・英語・国語)実施されます。9月からの授業にスムーズについていけるように、目標を持った復習に取り組みましょう。

☆☆テスト時刻表☆☆  
【9月1日】 …… 社会・技術・数学  
【9月2日】 …… 国語・理科・保健・英語

【明日からの「10月校内実力テスト」にベストを尽くそう。】

18日(火)・19日(水)の2日間にかけて、実力テストがあります。各教科とも範囲表が出ていますが、計画的に復習はできているでしょうか。今日の宿習帳や生活の記録を見ると、土・日の宿習帳を10ページがんだり、土日合計10時間以上のテスト勉強をがんばったりした人も多くいました。参観日資料の「1学期の反省」にも書きましたが、テストへ向けてやる気を見せてくれる人が多く、うれしい限りです。



【来週の「県社・県英・県国テスト」にベストを尽くそう。】

18日・19日に10月校内実力テストが終わったばかりですが、来週には、まだ大事なテストが3教科あります。校内実力テストの平均点は、国語70点、社会70点、数学72点、理科75点、英語89点でした。国語で見ると、1A女子の平均が78点と高く、よく勉強していました。ところで、今週は宿習帳の内容も、テストの復習や単元テストへの取り組みをよくがんばっており、内容の充実したノートが多かったです。また、席の会のアドバイスを素直に受け入れて、実行してくれる姿にうれしく感じます。



**あやめ**  
**学力の伸びはいかに?**  
～校長室だより～

【A教科】 (5段階分布%)

年度	級数	1	2	3	4	5
H15.4	55.3	2	8	33	46	10
H16.4	49.5	6	21	47	23	2
H17.4	56.2	2	4	30	53	11

毎年4月当初に、全国標準学力検査が行われ、1年間の学力の伸びを知ることができます。

以下の表は、3年生の結果です。数学は偏差値で表してあります。(全国の平均点を50とします。50から数値が上がるほど、学力が高いことを示しています。)しかし、学力の推移は、数学よりも、右側の1～5段階の評定の分布人の推移の方が、正確にわかります。つまり、人数の割合が、右側に(1や2の段階から3、4、5の段階へ)増加していれば、学力が伸びていることになります。

特に、数学科、英語科は、前年度より1や2の段階の生徒が減少し、4の段階の生徒が著しく増加していることとなります。以下、学力が非常に伸びていることを示しています。以下の表は、学力の伸びが高い教科別に並べてあります。

第2学年についても、全教科共、確実に伸びてきています。伸び率が高い教科は、数学科と国語科でした。(英語科は今年初めて受験したので検証不可)

第1学年は、4教科受験でしたが、小学校6年間の学力の積み上げを見ることになりました。一番学力が高かったのは、社会科でした。さあ、また1年後の一人一人の学力の伸びが楽しみです。

「毎日1粒の米粒を入れるがごとく!」1年間という月日は、いろんな意味で人を変えるのに十分な月日です。しかし、学力にしても、スポーツにしても、力をつけるということは、自分の中に米粒ほ

## (2)「参観日アンケート」による外部評価の活用を図る。

- 参観授業に対する保護者側からの「評価・感想」を通して、各授業の改善に努めている。

## 7 成果と課題

### (1) 成果

- ① 「数学科」「英語科」の学力向上が牽引力となり、他教科の学力を引き上げた。
- ② 全教師による研究授業や授業研究会、各内部・外部評価の活用、教科部会の活性化などの取組を通して、各授業の「質」が向上し、生徒が意欲的に活動し、考えや意見を表出する場面が多く見られるようになり、授業の活性化が図られた。(特に数学科は、「学力向上授業研究会」〈県教育委員会主催〉の研究授業者に選ばれた。)
- ③ 本校の「学力の伸び」について、教師はもちろん、生徒や保護者、そして地域の方々が知ることによって、地域全体がそれを「誇り」と感じ、「学力向上」に対するさらなる意欲化につながっている。

### (2) 課題

- ① 「家庭学習」の充実に向けて、各家庭への更なる啓発を図る。
- ② 1年時より「学習訓練」を徹底し、全学年基本的学習習慣を定着させて、常に集中して授業に取り組むことのできる生徒の育成に努める。
- ③ 「数学科」「英語科」以外の教科のさらなる学力の向上に向けて、教師の意識改革並びに指導力の向上に努める。